

いちご^{いちえ}一会とちぎ大会

第22回 全国障害者スポーツ大会 夢を感動へ。感動を未来へ。2022

第 22 回全国障害者スポーツ大会
栃 木 県 準 備 委 員 会

第 4 回 会 議



とちまるくん

「いちご^{いちえ}一会とちぎ大会」
マスコットキャラクター

平成 30 (2018) 年 7 月 12 日 (木)
栃木県庁東館 4 階 講堂

第 22 回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会 第 4 回会議 資料目次

○報告事項

- 報告事項 1 第 22 回全国障害者スポーツ大会
競技区分の変更等について P1
- 報告事項 2 第 22 回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会
役員及び委員の変更等について P2
- 報告事項 3 第 22 回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会
平成 30(2018)年度暫定事業計画及び暫定収支予算について P3

○審議事項

- 第 1 号議案 第 22 回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会
平成 29(2017)年度事業報告について P5
- 第 2 号議案 第 22 回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会
平成 29(2017)年度収支決算について P7
- 第 3 号議案 第 22 回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会
平成 30(2018)年度事業計画 (案) について P8
- 第 4 号議案 第 22 回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会
平成 30(2018)年度収支予算 (案) について P9
- 第 5 号議案 第 22 回全国障害者スポーツ大会
実施競技及び競技運営主管団体の追加等 (案) について P10
- 第 6 号議案 第 22 回全国障害者スポーツ大会
式典基本方針 (案) について P12
- 第 7 号議案 第 22 回全国障害者スポーツ大会
宿泊等基本方針 (案) について P13
- 第 8 号議案 第 22 回全国障害者スポーツ大会
輸送・交通等基本方針 (案) について P15

○協議事項

- 協議事項 1 第 22 回全国障害者スポーツ大会
オープン競技実施基本方針 (素案) について P16
- 協議事項 2 第 22 回全国障害者スポーツ大会
会場地設営等基本方針 (素案) について P21

第22回全国障害者スポーツ大会 競技区分の変更等について

1 個人競技

変更内容	変更前		変更後		変更理由
	競技名	区分	競技名	区分	
競技区分変更	卓球	身・知	卓球	身・知・ <u>精</u>	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が、平成31(2019)年第19回全国障害者スポーツ大会から「卓球」に精神障害の追加を決定したため
競技追加	—	—	<u>ボッチャ</u>	<u>身</u>	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が、平成33(2021)年第21回全国障害者スポーツ大会から「ボッチャ」の追加を決定したため

2 団体競技

変更内容	変更前		変更後		変更理由
	競技名	区分	競技名	区分	
競技名称変更	車椅子バスケットボール	身	<u>車いす</u> バスケットボール	身	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が、平成30(2018)年4月1日付で全国障害者スポーツ大会競技規則等において「車椅子バスケットボール」競技名称の表記を「 <u>車いす</u> バスケットボール」に変更するため

第22回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会 役員及び委員の変更等について

平成30(2018)年3月7日から7月12日までの間における役員及び委員の変更等については次のとおりである。

○監事

(敬称略)

団体名及び役職	新	旧
栃木県会計管理者会計局長	矢野 哲也	富田 哲夫

○委員

(敬称略)

団体名及び役職	新	旧
栃木県ボウリング連盟会長	佐藤 勉	矢野 哲朗
栃木県ボッチャ協会会長	君島 紀子	追加
栃木県総合政策部長	富田 哲夫	北村 一郎
栃木県保健福祉部長	森澤 隆	山本 圭子

第22回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会 平成30(2018)年度暫定事業計画

第22回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会の平成30(2018)年度暫定事業計画は、次のとおりとする。

1 開催準備業務

- (1) 各種基本方針等の策定
- (2) 情報支援スタッフ養成事業
- (3) 競技役員等養成事業
- (4) 広報啓発

2 準備委員会の開催

年2回開催(予定)

3 各種調査の実施

- (1) 市町村及び競技団体ヒアリング
- (2) 先催県の情報収集

4 協議・連絡調整の実施

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会及び関係機関・団体との連絡調整

第22回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会 平成30(2018)年度暫定収支予算

第22回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会の平成30(2018)年度暫定収支予算は、次のとおりとする。

1 収入の部

(単位：千円)

科 目	予 算 額	備 考
負 担 金	4, 5 2 7	栃木県負担金
合 計	4, 5 2 7	

2 支出の部

(単位：千円)

科 目	予 算 額	備 考
事 業 費	4, 1 5 5	準備委員会開催費、情報支援スタッフ養成事業費、競技役員等養成事業費
事務局費	3 7 2	事務局運営費
合 計	4, 5 2 7	

第22回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会 平成29(2017)年度事業報告

1 大会の開催に必要な方針の策定に関すること

主な業務	内 容	備 考
(1) 大会の愛称・スローガン・マスコットの決定	<ul style="list-style-type: none"> ・大会愛称 「いちご^{いちえ}とちぎ大会」 ・大会スローガン 「夢を感動へ。感動を未来へ。」 ・マスコットキャラクター 「とちまるくん」 	ロゴデザイン含む
(2) 各種基本方針の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・会場地選定基本方針の策定 ・開催基本方針の策定 ・広報基本方針の策定 ・競技役員等養成基本方針の策定 ・ボランティア養成基本方針の策定 ・県民運動基本方針の策定 	
(3) 会場地市町村の選定	<ul style="list-style-type: none"> ・会場地市町選定 (13 競技9 市) 	
(4) 広報啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・大会啓発グッズの作成 ・各イベント等での広報活動の展開 	◇主な作成グッズ ・横断幕、のぼり旗、アドバック

2 準備委員会の開催

主な業務	開催年月日	開催場所	議案
第1回会議	H29(2017). 6. 16	栃木県公館 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・会則 (案) ・役員を選出 ・平成29(2017)年度事業計画 (案) ・平成29(2017)年度収支予算 (案) ・愛称・スローガン (案) ・会場地選定基本方針 (案)
第2回会議	H29(2017). 11. 14	栃木県庁 北別館 会議室 403	<ul style="list-style-type: none"> ・開催基本方針 (案) ・広報基本方針 (案) ・実施競技及び競技運営主管団体 (案) ・マスコットキャラクター (案)
第3回会議	H30(2018). 3. 7	栃木県公館 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・競技役員等養成基本方針 (案) ・ボランティア養成基本方針 (案) ・県民運動基本方針 (案) ・会場地選定 (案)

3 各種調査の実施

主な業務	備考
(1) 市町村及び競技団体ヒアリング	・ 競技会場地等の調整ヒアリング
(2) 先催県の情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第17回全国障害者スポーツ大会（愛顔つなぐえひめ大会）リハーサル大会の競技会の運営状況等の調査 ・ 第17回全国障害者スポーツ大会（愛顔つなぐえひめ大会）の開閉会式及び競技会の運営状況等の調査 ・ 平成28年度全国障害者スポーツ大会開催都道府県連絡会議（茨城県）、第17回全国障害者スポーツ大会後催県報告会（愛媛県）での意見交換及び施設調査 ・ 先催県の準備状況の調査

4 協議・連絡調整の実施

主な業務	備考
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会	・ 平成29年全国障害者スポーツ大会大会委員会への出席
関係機関・団体との連絡調整	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町連絡会議の開催 第1回：H29(2017).7.19 第2回：H29(2017).12.11 第3回：H30(2018).3.20

第22回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会
平成29(2017)年度 収支決算

収入決算額 920,002 円
 支出決算額 920,000 円
 差引残額 2 円

(差引残額は、翌年度繰越)

1 収入の部

(単位:円)

科目	予算額	補正額	予算現額 (A)	決算額 (B)	比較増減額 (B)-(A)	内容
負担金	920,000		920,000	920,000	0	栃木県負担金
受託金	0		0	0	0	
繰越金	0		0	0	0	
その他収入	2		2	2	0	預金利息
計	920,002	0	920,002	920,002	0	

2 支出の部

(単位:円)

科目	項目	予算額	補正額	流用額	予算現額 (A)	決算額 (B)	比較増減額 (B)-(A)	内容
事業費	準備委員会開催費	464,000		▲ 381,439	82,561	82,561	0	準備委員会開催経費
	大会啓発費	0		407,192	407,192	407,192	0	各種啓発に要した経費
	小計	464,000		25,753	489,753	489,753	0	
事務局費	事務局経費	456,000		▲ 25,753	430,247	430,247	0	事務局費
計		920,000	0	0	920,000	920,000	0	

監査報告書

第22回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会における平成29(2017)年度会計について、関係書類や預金通帳を基に監査を実施しましたが、経費の支出目的及び執行とも適切に処理されていたことを報告いたします。

平成30(2018)年6月20日

第22回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会監事

矢野 哲也

鈴木 光雄

第22回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会 平成30(2018)年度事業計画(案)

第22回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会の平成30(2018)年度事業計画は、次のとおりとする。

- 1 開催準備業務
 - (1) 各種基本方針等の策定
 - (2) 情報支援スタッフ養成事業
 - (3) 競技役員等養成事業
 - (4) 広報啓発

- 2 準備委員会の開催
年2回開催(予定)

- 3 各種調査の実施
 - (1) 市町村及び競技団体ヒアリング
 - (2) 先催県の情報収集

- 4 協議・連絡調整の実施
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会及び関係機関・団体との連絡調整

第22回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会
平成30(2018)年度収支予算(案)

第22回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会の平成30(2018)年度収支予算は、次のとおりとする。

1 収入の部

(単位：千円)

科 目	予 算 額	備 考
負 担 金	5, 5 8 7	栃木県負担金
合 計	5, 5 8 7	

2 支出の部

(単位：千円)

科 目	予 算 額	備 考
事 業 費	4, 3 6 3	準備委員会開催費、情報支援スタッフ養成事業費、競技役員等養成事業費
事務局費	1, 2 2 4	事務局運営費
合 計	5, 5 8 7	

第22回全国障害者スポーツ大会 実施競技及び競技運営主管団体の追加等（案）

- 実施競技は、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が定める「全国障害者スポーツ大会競技規則」に基づき、個人競技及び団体競技あわせて14競技を実施予定。
- 競技運営は、公益財団法人日本体育協会に加盟する開催地都道府県の関係競技団体及び公益財団法人日本障がい者スポーツ協会登録競技団体等が主管するとされている。
- 競技種目は、平成34(2022)年度「全国障害者スポーツ大会競技規則」に定めるところによる。

	競 技 名	区 分	競技運営主管団体
個人 競 技 (7 競 技)	陸上競技	身・知	一般財団法人栃木陸上競技協会
	水泳	身・知	栃木県水泳連盟
	アーチェリー	身	栃木県アーチェリー協会
	卓球 [STT(身)を含む]	身・知・精	栃木県卓球連盟
	フライングディスク	身・知	栃木県障害者フライングディスク協会
	ボウリング	知	栃木県ボウリング連盟
	ボッチャ	身	栃木県ボッチャ協会
団 体 競 技 (7 競 技)	バスケットボール	知	一般社団法人
	車いすバスケットボール	身	栃木県バスケットボール協会
	ソフトボール	知	
	グラウンドソフトボール	身	栃木県ソフトボール協会
	フットベースボール	知	
	バレーボール	身・知・精	栃木県バレーボール協会
	サッカー	知	公益社団法人栃木県サッカー協会

第22回全国障害者スポーツ大会 会場地選定 配置図〔圏域図〕



競技名等	障害区分			会場地	所在地
	身体	知的	精神		
開・閉会式	-	-	-	総合スポーツゾーン(新スタジアム)	宇都宮市
個人競技 (6)	陸上競技	○	○	総合スポーツゾーン(新スタジアム)	宇都宮市
	水泳	○	○	総合スポーツゾーン(新屋内水泳場)	宇都宮市
	アーチェリー	○		那須烏山市大桶運動公園多目的競技場	那須烏山市
	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	○	○	鹿沼総合体育館(TKCIちごアリーナ)	鹿沼市
	フライングディスク	○	○	栃木市総合運動公園陸上競技場	栃木市
	ボウリング		○	足利スターレーン	足利市
団体競技 (7)	バスケットボール		○	総合スポーツゾーン(新体育館)	宇都宮市
	車いすバスケットボール	○		栃木県立県南体育館	小山市
	ソフトボール		○	美原公園野球場・美原公園第2球場	大田原市
	グランドソフトボール	○		屋板運動場運動広場	宇都宮市
	フットベースボール		○	足利市総合運動場硬式野球場・足利市総合運動場軟式野球場	足利市
	バレーボール	○		清原体育館	宇都宮市
			○	宇都宮市体育館	宇都宮市
		○	アリーナたぬま	佐野市	
サッカー		○	真岡市総合運動公園陸上競技場	真岡市	

※ 実施競技は、平成29(2017)年度「全国障害者スポーツ大会競技規則」による。

第22回全国障害者スポーツ大会 式典基本方針（案）

第22回全国障害者スポーツ大会の式典は、第77回国民体育大会（以下、大会愛称「いちご^{いちえ}一会とちぎ国体」とする）と連携し、「夢を感動へ。感動を未来へ。」のスローガンのもと、障害の有無にかかわらず県民誰もが共に支え合う「共生社会」の実現に寄与することを目的とする。

1 開・閉会式

(1) 参加者に配慮した式典運営

開・閉会式は、できるだけ簡素で効率的にし、十分な競技時間を確保するとともに、参加する選手・役員等の負担を軽減し、健康管理に十分配慮するものとする。

(2) 式典催事の内容

式典催事は、障害のある人もない人も、大会に参加するすべての人が一体となって感動と喜びを共有できるものとする。

(3) 音楽・演技等の構成

式典音楽・式典演技等は、「いちご一会とちぎ国体」を基本として、第22回全国障害者スポーツ大会開催基本方針を踏まえた構成とする。

(4) 荒天時の対応

荒天時の開・閉会式については、規模を縮小して実施する。

(5) リハーサルの実施

開・閉会式の円滑な運営を図るため、リハーサルを実施する。

(6) 参加者への情報提供

式典に関する情報が、あらゆる人にわかりやすく提供できるように配慮する。

2 炬火

(1) 炬火点火・納火

炬火は、開会式において主会場の炬火台に点火し、大会期間中、選手たちの活躍を見守り続けた後、閉会式において納火する。

(2) 炬火イベント

全県的な大会機運の高揚と、障害に対する理解を深めるため、「いちご一会とちぎ国体」と連携した炬火を活用したイベントの実施を検討する。

第22回全国障害者スポーツ大会 宿泊等基本方針（案）

第22回全国障害者スポーツ大会に参加する選手・監督、役員、視察員、報道員及びその他の関係者（以下、「大会参加者」とする）の宿泊施設の確保と大会参加者の障害特性に合った適切な配宿に努めるとともに、大会参加者及び一般観覧者の医事・衛生に万全を期すものとする。

1 宿泊

大会参加者が心身ともに良好な状態で大会に臨めるよう、関係機関・団体等の協力を得て、おもてなしの心をもって快適な宿泊施設の確保に努める。

(1) 参加意向調査

宿泊施設ごとの受入数を調整するため、大会参加者の障害の程度や宿泊数等の調査を実施する。

(2) 宿泊施設調査

大会参加者の特性に合った適切な配宿を行うため、宿舎の客室タイプや設備等の調査を実施する。

(3) 宿泊環境整備

大会参加者が快適に宿泊できるよう、宿泊施設のバリアフリー化について理解を求めるとともに、必要に応じてシャワーチェアや浴槽マットなどの宿泊を支援する用具を配置するほか、エレベーターに点字シールを設置するなど、障害特性に応じた宿泊環境の向上に努める。

(4) 宿泊料金の設定

第77回国民体育大会（以下、大会愛称「いちご^{いちえ}一会とちぎ国体」とする）との連携を図り、関係団体等と協議の上、宿泊料金を設定する。

(5) 配宿

大会参加者の障害の程度や会場までの交通、大会スケジュールなどに配慮した配宿に努める。

(6) 接遇講習会

大会参加者へのサービスの向上と真心あふれるおもてなしを実践するとともに、障害者への合理的配慮を推進するため、宿泊施設の従事者を対象とした接遇講習会を実施する。

(7) 食事

大会参加者に提供する食事は、安全・安心で栄養バランスが良く、豊かな自然と良質な水に育まれた栃木県産の様々な食材を利用した郷土色豊かな「いちご一会とちぎ国体」の献立を準用する。

【参考：宿泊者数（想定）】

選手団	大会関係者
約 5,500 人	約 1,500 人
1日最大 7,000 人 延べ 30,000 人程度	

2 医事・衛生

大会参加者及び観客の安全と健康のため、関係機関及び団体等の協力を得て、医療救護や防疫の体制を整える。

また、食品衛生の徹底を図り、会場の清掃や廃棄物の適切な処理を行い、清潔で快適な環境を整える。

第22回全国障害者スポーツ大会 輸送・交通等基本方針（案）

第22回全国障害者スポーツ大会に参加する選手・監督、役員、視察員、報道員及びその他の関係者（以下、「大会参加者」とする）並びに一般観覧者の安全かつ確実な輸送を行うよう努めるとともに、観光情報など栃木県の魅力に触れる機会を提供する。

1 輸送

大会参加者及び一般観覧者の安全かつ円滑な輸送を行うため、関係機関・団体等の協力を得て、道路及び交通状況を十分考慮した輸送体制の整備に努める。

(1) 全国輸送

全国から来県する大会参加者の集合・解散は、自由集合・自由解散とする。

また、関係機関等の協力を得て、安全かつ円滑な輸送の確保に努める。

(2) 県内輸送

大会参加者については、借上バス・タクシーなどにより計画的に輸送を行う。その際は必要に応じて、低床バスや福祉車両等バリアフリーに対応した車両を活用する。

また、一般観覧者については、公共交通機関の利用やシャトルバスの運行等により円滑な輸送に努める。

(3) 車両及び駐車場

大会参加者及び一般観覧者の輸送に必要な車両については、関係機関等の協力を得て、その確保に努める。

また、大会参加者及び一般観覧者の駐車場や乗降場を確保し、輸送の円滑化に努める。

(4) 交通安全対策

大会期間中における交通安全の確保と交通混雑の緩和を図るため、関係機関等のもとより、広く県民に協力を求め、実情に応じた適切な対策を講じる。

2 観光

全国から来県した大会参加者や一般観覧者に、栃木県の魅力に触れる機会を提供し、空き時間を利用しての観光や買い物を積極的にサポートするため、関係団体との連携のもと、観光や県産品の情報提供を行う。

第22回全国障害者スポーツ大会 オープン競技実施基本方針(素案)

第22回全国障害者スポーツ大会（以下、大会愛称「いちご^{いちえ}一会とちぎ大会」とする）におけるオープン競技は、全国障害者スポーツ大会開催基準要綱（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会（以下「日障協」とする）制定）に定めるもののほか、この基本方針により実施する。

1 趣旨

障害者スポーツの一層の普及・振興を図る観点から、「いちご一会とちぎ大会」において、全国障害者スポーツ大会競技規則（日障協制定）に定める個人競技及び団体競技（以下「正式競技」とする）以外の競技をオープン競技として実施する。

なお、オープン競技は、正式競技の開催に支障のない範囲で実施するものとする。

2 募集

広く障害者の間にスポーツを普及する観点から有効と認められる競技について、県内の関係団体等へ公募する。

3 運営・経費

オープン競技の実施を希望する団体（以下「実施団体」とする）は、競技会開催にあたり必要な業務について、すべての運営を行う。

また、競技会開催に係る経費については、実施団体の負担とする。

4 選定基準

実施するオープン競技の選定基準は、次のとおりとする。

- (1) 実施団体が、自主運営により競技会を実施できること。
- (2) 県内に出場可能な選手・チームが存在すること。
- (3) 県外の選手・チームが出場できるルールが確立している競技であること。
- (4) 既設の競技施設により実施可能であること。
- (5) 原則として、いちご一会とちぎ大会の開催期間内に実施が可能であること。

5 選定手順

- (1) 平成31(2019)年8月～ 関係団体等に対し、公募
- (2) 平成31(2019)年9月～ 実施団体等との協議
- (3) 平成32(2020)年1月～ オープン競技(案)について審議・選定
- (4) 平成32(2020)年2月～ 中央主催者(文部科学省・日障協)と協議のうえ、決定

オープン競技選定スケジュール（見込み）

時 期		内 容	
H30 (2018)	7月	【準備委員会 第4回会議】 オープン競技実施基本方針（素案）協議	
	}	オープン競技実施基本方針（素案） 意見照会	
H31 (2019)	}		
	2月	【準備委員会 第5回会議】 オープン競技実施基本方針 審議・決定	
	3月	関係団体の把握 オープン競技募集要項の検討	
	}		
	7月	準備委員会を実行委員会に移行	【国体会期 決定】 【大会会期 文科省協議】
	8月	公募開始 （実施意向調査）	【大会会期 決定】
	9月	実施計画書内容審査 実施団体、関係市町との協議	
	10月		
	11月	会場地市町との調整 事務局選定（案）作成	
	12月		
H32 (2020)	1月	【実行委員会】 オープン競技（案） 審議・決定	
	}		

※ 実行委員会での選定後，中央主催者（文科省・日障協）と協議の上，決定する。

オープン競技 先催県（5年間）の実施競技

	岩手県	愛媛県	福井県	茨城県	鹿児島県	実施回数
	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	H32 (2020)	
卓球バレー	○		○	○		3
ゲートボール	○		○			2
ブラインドテニス		○		○		2
スポーツ吹矢				○	○	2
ビリヤード	○					1
ペタンク	○					1
精神障害者フットサル		○				1
肢体障害者ボウリング		○				1
車いすテニス			○			1
車いすダンス				○		1
ハンドアーチェリー				○		1
グラウンド・ゴルフ				○		1
ふうせんバレーボール					○	1
電動車椅子サッカー					○	1
計	4	3	3	6	3	19

※オープン競技の名称は各先催県の開催基本計画による。

オープン競技 先催県(5年間)の実施競技(説明)

卓球バレー	身・知・精	
<p>全員が椅子に座り(車椅子の方はそのまま車椅子を使用)、ネットの下を転がしてプレーするので、重い障害を持つ方から子どもお年寄りまで一緒に楽しめるユニバーサルスポーツです。 1チーム6名で卓球台を囲むように座り、合計12名で試合をします。長方形の木製ラケットに、サウンドテーブルテニス用(中に鉛玉が入り音がします)のピン球を使用し、ネットの下を転がし、3打以内で相手コートに返す競技です。</p>		
ゲートボール	身・知・精	
<p>公式ゲートボール競技規則2016及び本大会申し合わせ事項により行います。 チーム対抗形式で1チーム5人の競技者により行います。 スパークの申し出ができるのは車椅子使用者及び著しい下肢障害者とします。 30分の競技時間のうち、どちらのチームが多く得点したかで勝敗が決まります。</p>		
ブラインドテニス	身	
<p>バドミントンのコートを使用し、音源入りスポンジボールを障害の程度に応じて決められたバウンド数以内で打ち合う、日本生まれのスポーツです。</p>		
スポーツ吹矢	身・知・精	
<p>身体障害のある選手と知的障害のある選手、精神障害のある選手が出場できる競技です。 スポーツ吹矢は、5～10m離れた円形の的に腹式呼吸を使って5本の矢を放ち、その合計得点を競い合うスポーツです。 的は中心の白い部分が7点、その外側の赤い部分が5点、その外側の白い部分が3点、さらに外側の黒い部分が1点と中心にいくほど点数が高くなります。</p>		
ビリヤード	身・知・精	
<p>白いボールを突いて色の着いたボールをテーブル上にある少ない番号順に当てて、最終的に9ボールをポケットに落とした方が勝ち、というゲームでルールも簡単で分かり易く、車椅子の方は補助器等を使用する時、介添ってもらっても良く、上肢の障害がある場合、特殊なキューを使用しても良い事になっています。</p>		
ペタンク	身・知・精	
<p>障害者2人と健常者(世話人を兼ねる)1人の3人が1チームです。この他に補欠1人を加えることができます ルールは、一般のペタンク競技を基本とし、用具も同じものを使います。 目的球(ビュット)にどちらのチームのボールがより近づけられるかを競います。 ビュットに近いボールでないチームが、相手のボールより近くなるまでボールを投げます。 一人の持ちボールは2個で、投げる順番は決まっていなく、一人が続けて投げて、交代して投げててもかまいません。相手のボールよりビュットに近くなるまで投げます。そのとき、相手ボールをはじき飛ばしても構いません。 相手チームのボールよりもビュットに近くなると、今度は反対のチームがビュットに近くなるまでボールを投げます。 ボールの投げ方も転がす・落として転がす・ぶつけて飛ばす等々、多くの投げ方があり、最後まで勝つチャンスのある楽しい競技です。</p>		
精神障害者フットサル	精	
<p>弾みにくいフットサル専用のボールを使用し、ハーフタイムをはさんで、前後半各10分で実施します。</p>		
肢体障害者ボウリング	身	
<p>全日本ボウリング協会公式ルールのもと、アメリカン方式で行い、6ゲーム・3ゲーム別で実施します。</p>		

車いすテニス	身	
<p>車椅子に乗って行なうテニスで障害者スポーツの1つです。「2パウンドによる返球」が認められていること以外は、一般のテニスと同じルール(コートの高さやネットの高さも同じ)で行われています。使用する車椅子は、回転性能や敏捷性が得られるような車いすテニス専用のものが用いられる場合が多いです。</p> <p>テニスの技術ばかりではなく、車椅子を素早く正確にコントロールするチェアワーク(車椅子によるフットワーク)が求められます。</p> <p>2パウンド返球以外は、一般のテニスと変わらないため、健常のプレイヤーと対戦したり、ダブルスを組んで一緒にプレーしたりできることも魅力の一つです。</p>		
車いすダンス	身	
<p>車椅子に乗っている人を“ウィルチェア・ドライバー”、立ち役の健常者を“スタンディング・パートナー”と呼び、ペアを組んで社交ダンス(ボールルームダンス)を踊ります。</p> <p>老若男女を問わず、広く親しまれている社交ダンス(ボールルームダンス)と同様、スタンダード5種目(ワルツ、タンゴ、スローフォックストロット、ウィンナーワルツ、クイックステップ)、ラテンアメリカン5種目(ルンバ、サンバ、チャチャチャ、パソドブレ、ジャイブ)の計10種目で競い合います。</p>		
ハンドアーチェリー	身・知	
<p>ボード(的)に針のついていないピンをあて、得点を競うスポーツで、子どもから高齢者、障害者まで安全に安心して楽しめるよう配慮されています。</p> <p>基本ルールは、指定の位置より右手で5回、左手で5回の合計10回ピンを投げ、合計点数の高い人が勝ちとなります。競技対象者の身体状況によって投げる距離や姿勢、ボードの高さなども自由に設定することが可能です。</p>		
グラウンド・ゴルフ	身・知・精	
<p>子どもから高齢者、障害者まですべての人が、プレーを楽しめる条件を全て備えたスポーツで、1人でも、あるいは場所さえあれば一度に何百人もの人がプレーすることができます。</p> <p>専用のクラブ、ボール、ホールポスト、スタートマットを使用して、ゴルフのようにボールをクラブで打ち、ホールインするまでの打数で競い合います。</p>		
ふうせんバレーボール	身・知・精	
<p>バドミントンコートを使用し、1チーム6人編成で、鈴を2個入れた風船を40cmに膨らませ、ネット越しに両チームがふうせんを打ち合うスポーツ。</p> <p>障害のある人とない人がチームを組み、チーム全員がボールに触れなければ相手コートに返せません。6回以上10回以内で相手コートにボールを返します。</p>		
電動車椅子サッカー	身	
<p>電動車椅子の前にフットガードを取り付けて行うサッカーです。自立した歩行ができないなど比較的重度の障害を持った選手が多く、ジョイスティック型のコントローラーを手や顎などで操りプレーします。性別による区分はなく、男女混合のチームで行います。国際的な呼称は「Powerchair Football」となっており、スピードは時速10km以下と定められています。直径約32.5cmのボールを使用、繊細な操作で繰り広げられるパスやドリブル、回転シュートなど華麗かつ迫力あるプレーが魅力です。</p>		

※説明文は先催県や競技団体のホームページ等から抜粋

第22回全国障害者スポーツ大会 会場地設営等基本方針（素案）

第22回全国障害者スポーツ大会に参加するすべての人が、安全で快適に大会を楽しむことができる会場づくりを目指す。

1 基本目標

(1) 利用しやすい会場づくり

段差解消のためのスロープや車椅子での利用が可能な広めのトイレ等の仮設物を設置するなど、すべての人にとって利用しやすい会場づくりを図る。

(2) 分かりやすい情報の提供

会場や会場周辺の多くの人が集まる場所において案内を行うボランティアの配置をはじめ、大きな文字やふり仮名を使用した案内看板や電光掲示板、ヒアリンググループの設置、インターネットによる情報発信など、すべての人に分かりやすい情報提供を図る。

2 整備の視点

(1) 安全性

障害のある人をはじめ、参加者全員に配慮した動線の設定や区分けを行い、すべての人にとって安全な会場の整備に努める。

(2) 快適性

看板等の情報伝達設備や、スロープ、オストメイト対応の多目的トイレ等の設置を行い、参加者が快適に利用できる会場づくりに努める。

(3) 簡素・効率化

既存の施設を最大限活用し、仮設物による対応を基本とする。

また、第77回国民体育大会で利用した物品等を有効活用するなど、簡素・効率化に配慮した会場づくりに努める。

【取組スケジュール】

平成 31 (2019)年度	平成 32 (2020)年度	平成 33 (2021)年度	平成 34 (2022)年度
開・閉会式会場 基本計画	開・閉会式会場 基本設計	開・閉会式会場 実施設計	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">仮設物 設置</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">リ ハ ー サ ル 大 会</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">最終 調整</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">本 大 会</div> </div>
会場地 バリアフリー 調査実施	競技会場仮設 施設基本設計 情報保障 基本方針策定	競技会場仮設 施設実施設計 情報保障 実施方針策定	

えがお
第17回全国障害者スポーツ大会愛顔つなぐえひめ大会の状況

<p>スロープ (仮設)</p> 	<p>タイル敷き詰め (仮設)</p> 
<p>多目的トイレ (仮設)</p> 	<p>案内ボランティア</p> 
<p>大きな文字、ふり仮名</p> 	<p>電光掲示板 (文字情報、手話映像)</p> 
<p>情報保障席</p> 	<p>ヒアリングループを表すマーク</p>  <p>マーク</p> <p>※ヒアリングループ 場内アナウンスの音声等を補聴器に直接送り込むための放送設備。 磁気コイル付き補聴器を持っている方が利用できる。</p>

VERY 
GOOD
LOCAL

とちぎ

とちぎブランド推進のキャッチフレーズ

ベリー グッド ローカル とちぎ
VERY  GOOD LOCAL

「グッドローカルなとちぎが地方のモデルになっていこう。」
ローカルの良さが詰まったとちぎが、前向きな決意を込めて宣言します。